

<今回>308回目 2021年12月24(金)15時~18時 第8会議室

読書は10冊目「失われた九州王朝」再読 p380、代表者は何時交代したか より

<前回>307回目(21-12-10)出席者 7名

資料(21-12-10-1)前回のまとめ(清水)

A 報告 年末年始が平安に過ごせたら良い。日本は奇しくも新型コロナが収束に向かっているが、どこまで継続するか。ワクチンとマスクですか。公衆衛生の意識だと思う。天武14年の冠位の最上位は明、浄である。

B 資料 高山氏より、遣唐使など外交を担った氏族は奈良の春日氏などと紹介された。北部九州にワニ氏が特有の祭神を祀っている。阿田賀田須命、宗像市の近くにある。ワニに坐す神社、16氏系統があるらしい。外交氏族として整理した本もある。小野妹子、犬上三田耜、粟田真人、羽粟翼、など近江、北部九州、大和と同じような分布があるらしい。むさし、さがみについては東海道が後から東山道より別れたからそれ以降ではないかという平川説を紹介された。

C読書 371頁 旧唐書の史料価値 から

A) 日本国は倭国の別種である。

B) 其の国日辺にあるを以て日本と名を為す

C) 或は倭国その名の雅ならざることを悪み、改めて日本と為すと

D) 或は倭国はもと小国、倭国の地を併せたりと。

2つの実

1) 入朝する者多く自ら衿大、実を以て対せず、故に中国これを疑う。実は検証して確かめること。後漢書に記された委奴国以来、世々中国と通じた王朝、(倭の5王)、阿每氏という九州王朝である。それを代々中国は日本列島を代表する王者としてきたが天皇家は永遠の昔から列島の代表者として現れてきた。

3) 宗教的論理、例えば西暦紀元前をさかのぼって旧約聖書を教えるようなものだ。①中国独自の大義名分論 ②各時代に渡って実際に密接した列島内の代表勢力王朝と交渉してきた。検証と記録により日本国側の言い分は衿大で実に非ずと評価した。

4) 倭国と日本国の境界①倭国は4面に小島、50余国、卑弥呼の時代は30許国②日本国はその国の東西南北数千里、西海と南海は大海に至り、東北は大山有りて限りを為し、山外は毛人の国也と。

5) 日本書紀の里程①任那は筑紫を去ること2千余里、対馬海峡海上3千里、多禰京を去ること5千里(近畿京都か筑紫倭京)旧唐書において倭国と日本国は明白に別領域として別の描写が行われている。

6) 倭国の境界の場合、4面に 付属す。と地の文であるのに対して、日本国の場合はその国の境界に対して「また云う なむ」という日本国使の申し立てに対する直接法の形をとっている。前者は中国にとって安定した知識であるのに対して後者は新来の知識であることを示す。

2022-1-10((月・祭日) 16時から18時 かながわ労働プラザ 第8会議室

—1-21(金) 15時から18時 かながわ労働プラザ 第8会議室

—2-4(金) 15時から18時 かながわ労働プラザ 第8会議室